



®環境省

エコアクション21

認証・登録番号 0009349

エコアクション21 環境活動レポート

対象期間:2017年1月~2017年12月

発行日:2018年1月4日

 **総和設備工業株式会社**
Souwa Facilities Engineering Co.,Ltd

	ページ
1. 組織概要及び認証適用範囲	2
2. エコアクション21実施体制表	3
3. 環境方針	4
4. 環境目標	5
5. 環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容	6
6. 環境目標の達成状況と分析	7
7. 環境関連法規等の遵守評価記録	10
8. 代表者による見直し記録	11

■ 1. 組織概要及び認証適用範囲

1. 事業所名

総和設備工業株式会社

2. 代表者氏名

木村 正幸

3. 所在地

本社: 東京都八王子市明神町四丁目6番6号

4. 環境管理責任者

岡田 孝司 (技術2課長)

連絡先 TEL: 042-644-3511 E-mail: t-okada@souwa-kk.co.jp

5. 事業の規模

資本金: 2,000万円
年商額: 3億3000万円(2017年度決算時)
従業員数: 9名
延床面積: 134.5㎡
敷地面積: 25.57㎡

6. 事業活動の内容

建築設備(空調・給排水衛生・消火)の新設・改修・メンテナンスの設計・施工

7. 設立年月日

1985年7月1日設立

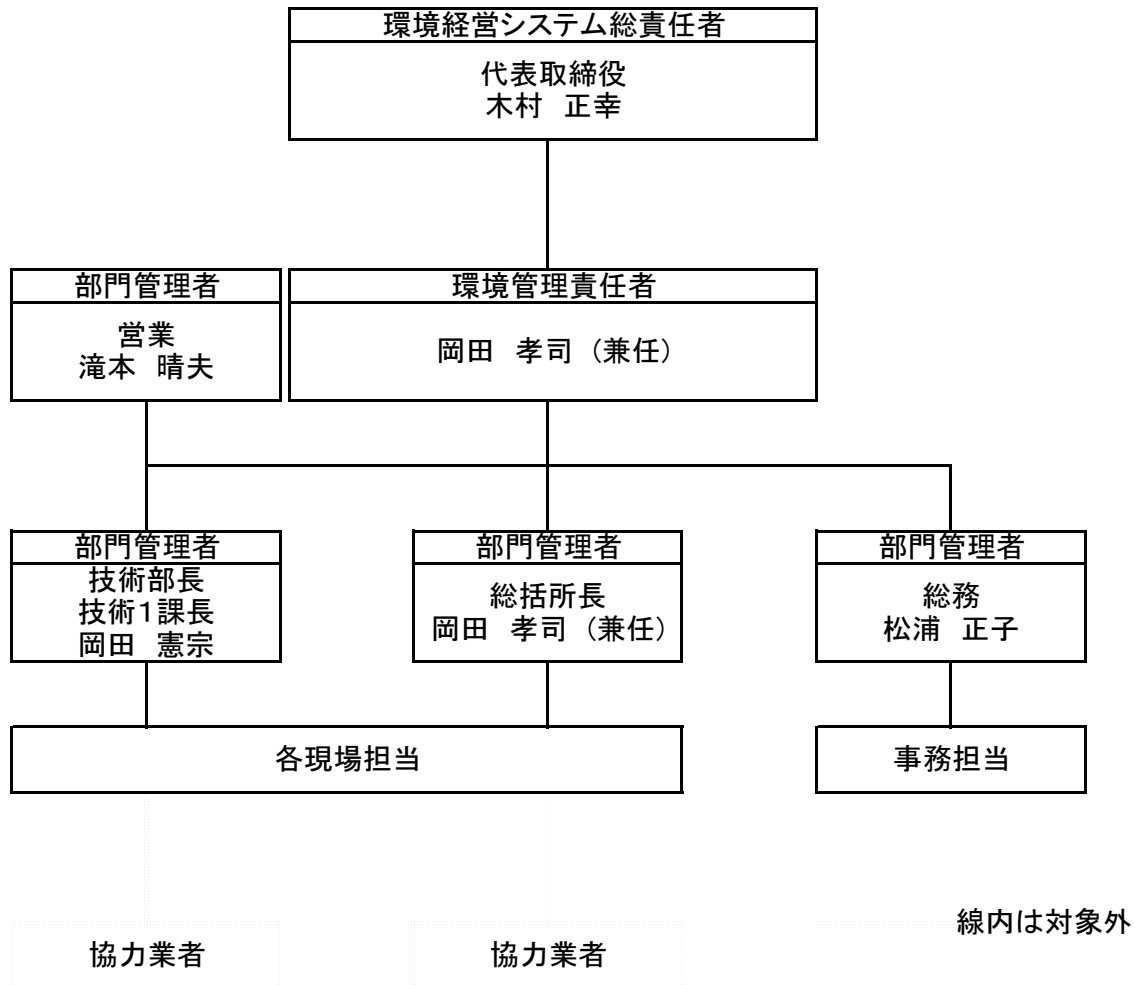
8. 事業年度

7月1日～6月30日

9. 認証適用範囲

上記に記載された全組織、全従業員を対象範囲とする。

2. エコアクション21実施体制表



各部門の役割及び権限	
代表取締役	環境経営方針・目標の設定並びに見直し 環境管理責任者を指名 環境経営システムに必要な資源(人材・資金・技術)の手配指示 環境経営システムの構築並びに見直し 環境活動計画の承認
環境管理責任者	環境経営システム運用上の事務管理 環境関連法規等の把握と管理 環境経営方針の提案と、環境活動計画書の作成 環境経営システムの全従業員への周知 環境経営システムの確立と、実施・維持管理・改善提案 環境活動計画の推進状況把握と結果報告書の作成と報告 問題発生に対する是正及び予防措置の対応指導
部門管理者	環境経営システムに必要な資源(人材・資金・技術)の手配 環境関連法規等の遵守状況の把握 環境経営システムの運用管理及び監視
全従業員	環境活動への参加 環境教育での環境関連報告発表 環境活動計画に基づいた記録・測定の提出 環境活動への改善の提案

■ 3. 環境方針

1. 基本理念

近年、環境保護への意識が高まり、さまざまな分野での環境改善志向が進んでいます。産業界のどの分野でも技術の進歩が速く低燃費・低消費電力など環境にやさしい製品を開発しないと企業の存続が難しく、建築業界でも効率の良い設計や施工方法など環境に配慮した設備が要求されています。そのため、環境にやさしい製品や工法が広く普及していますが、CO2排出量は年々増加しています。技術が進歩してもそれを使う人間の意識が変わらなければ、低環境負荷の実現は不可能です。今後はエネルギーを低減させるため、各自が知恵を絞って持っている技術力を環境にやさしい建築設備に繁栄させていくほか、使う側のエネルギーに対する意識変革が継続的に求められ、機会あるごとに発信していかなければなりません。

総和設備工業は、快適な生活と地球環境にやさしい効率的な建築設備の設計・施工・監理を継続的に行います。

2. 環境保全への行動指針

1. 当社は基本理念に基づき、具体的に次の項目に取り組みます。
 - (1)省エネルギーを配慮した設計施工を行う。
 - (2)事務所・工事現場における電力消費量の削減により、二酸化炭素排出量を削減する。
 - (3)車両の燃料消費量の削減により、二酸化炭素排出量を削減する。
 - (4)作業現場における水資源の無駄遣いを減らし、総排水量を削減する意識付けを行う。
 - (5)新冷媒機種との交換を促進し、また旧冷媒ガスの適正破壊処理により、オゾン層破壊ガスの削減を図る。
 - (6)工事現場から発生する廃棄物を分別し、リサイクル量を増やす事で産廃排出量を削減する。
 - (7)工事現場や事務所にて、資材や事務用品のグリーン購入を推進する。
2. 環境関連法規制や条例を遵守します。
3. 環境への取り組みを、環境活動レポートとしてとりまとめ、公表します。

制定日 2017年 1月 4日

代表取締役 木村 正幸



4. 環境目標

重要施策		基準値 2014-2016年 平均からの補正值	環境目標				
			2017年 (2017.01~2017.12)	2018年 (2018.01~2018.12)	2019年 (2019.01~2019.12)		
環境負荷の削減	省エネルギー 省資源	電力 使用量削減	実消費量 5,172 (kWh)	電力 消費量1%削減 (5,120kwh)	電力 消費量1%削減 (5,120kwh)	電力 消費量1%削減 (5,120kwh)	
		ガソリン燃料 消費量削減	実消費量 971 (ℓ)	ガソリン燃料 消費量10%削減 (874ℓ)	ガソリン燃料 消費量10%削減 (874ℓ)	ガソリン燃料 消費量10%削減 (874ℓ)	
		都市ガス 消費量削減	実消費量 62 (Nm ³)	都市ガス 消費量5%削減 (58.9Nm ³)	都市ガス 消費量5%削減 (58.9Nm ³)	都市ガス 消費量5%削減 (58.9Nm ³)	
		二酸化炭素 排出量削減	実消費量 4,982 (kg-CO ₂)	二酸化炭素 排出量 6.9%削減 (4638kg-CO ₂)	二酸化炭素 排出量 6.9%削減 (4638kg-CO ₂)	二酸化炭素 排出量 6.9%削減 (4638kg-CO ₂)	
		上水 使用量削減	実使用量 91 (m ³)	上水 使用量増加なし (91ℓ)	上水 使用量増加なし (91ℓ)	上水 使用量増加なし (91ℓ)	
		コピー用紙 使用量削減	実購入量 17,250 (枚(A4換算))	コピー用紙 購入量増加なし (17,250枚) (A4換算)	コピー用紙 購入量増加なし (17,250枚) (A4換算)	コピー用紙 購入量増加なし (17,250枚) (A4換算)	
	廃棄物削減	産業廃棄物 の削減	実排出量 53.21 (t)	産業廃棄物 排出量8%削減 (48.95t)	産業廃棄物 排出量10%削減 (47.88t)	産業廃棄物 排出量10%削減 (47.88t)	
		再資源化率 の増加	再資源化率 100 (%)	産業廃棄物 再資源化率 100%	産業廃棄物 再資源化率 100%	産業廃棄物 再資源化率 100%	
	環境取組の推進・向上	化学物質の 把握	フロンガスの 回収	フロンガス破壊処理率 100 (%)	フロンガス 破壊処理率 100%	フロンガス 破壊処理率 100%	フロンガス 破壊処理率 100%
		全従業員の 参加	教育・説明・ 勉強会	勉強会開催回数 10回/年	環境負荷削減に ついての提案・検 討会を年間10回 で開催する	環境負荷削減に ついての提案・検 討会を年間10回 で開催する	環境負荷削減に ついての提案・検 討会を年間10回 で開催する
グリーン購入 の推進 グリーン調達		業務用購入 商品の環境 配慮	グリーン購入割合 50 (%)	事務用品の環境 配慮品購入割合 80%	事務用品の環境配 慮品購入割合80%	事務用品の環境配 慮品購入割合80%	
業務品質の 向上、効率化		ムダを排除 し、業務質の レベルアップ		整理・整頓・清掃の 月1回30分程度実施	整理・整頓・清掃の 月1回30分程度実 施	整理・整頓・清掃の 月1回30分程度実 施	
地域への環 境配慮		地域清掃・リ サイクル活 動への参画		地域リサイクル活 動に参加(回収活 動、物品提供)	地域リサイクル活 動に参加(回収活 動、物品提供)	地域リサイクル活 動に参加(回収活 動、物品提供)	

(注)購入電力の排出係数については、国が公表する東京電力の排出係数を用いている。

事業者名	排出係数(t-CO ₂ /kWh)
東京電力(株)	0.0005

(2017年末更新)

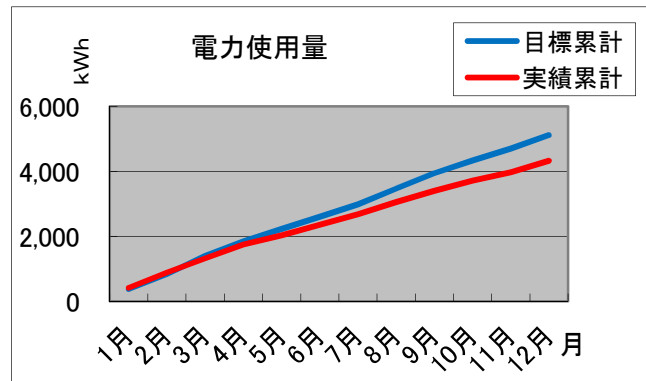
5. 環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境目標	目標達成手段 (具体的方法)	取組結果と評価	次年度の取組内容
電力使用量の削減	① 事務所の照明の点灯は必要最低限とする	① 非常によく対応できた。	全体的に目的達成手段は良く対応できていた。 この水準を保持しつつ、 次年も①②③④の項目は 継続して実施する。
	② 空調の設定温度は夏期は28℃以下にする	② 目標通りに設定できた。	
	③ 空調の設定温度は冬季は20℃以下とする	③ 目標通りに設定できた。	
	④ 休憩時間のPCモニターの電源をOFFにする	④ 良く対応できた。	
ガソリン使用量の削減	① アイドリングストップの励行	① 良く対応できた。	車両利用の頻度は減って ないものの、昨年度より結果 が良くなっていた。 よって、次年も①②③の項目 は継続して実施する。
	② なるべく公共交通機関を利用する	② 良く対応できた。	
	③ 経路を事前に調べ、走行距離を最短にする	③ 良く対応できた。GPSを利用した人は渋滞の回避により燃料の節約がよりよくできた。	
上水使用量の削減	① 手洗い時、洗い物の、日常的な節水の励行	① 良く対応できた。	①②③の項目は次年度も 継続して実施する。
	② 作業服の洗濯はまとめて洗う	② 良く対応できた。	
	③ 飲料用水は水道水を使わない	③ 良く対応できた。	
紙使用量の削減 (購入量)	① コピー用紙の両面使用	① 非常によく対応できた。	①③の項目は次年度も 継続して実施する。 ②の項目はPC-FAXを除外 する。
	② 電子メールやPC-FAXの活用	② 電子メールの使用率がほぼ100%となっているのでFAXは項目から外す。	
	③ コピー機の使用後は設定をリセットする	③ コピー機自体の使用頻度が少なかったが、良く対応できた。	
産業廃棄物の削減	① 現場で発生する廃棄物中、金属とダンボールは混廃にせず、リサイクル業者へ引き渡す	① よく対応できていた。 結果は元請現場数により変化するので、来年度もこの状況を維持するよう努める。	①②③の項目は次年度も 継続して実施する。
	② 資機材発注の際は簡易梱包を依頼する	② 良く対応できた。	
	③ 産廃置き場の表示を社名入りで表示する	③ 良く対応できた。	
化学物質の把握	① 冷凍空調機器の有無の確認	① 良く対応できた。	次年度も継続して実施 する。
	② 委託確認書・引き取り証明書の保存	② 良く対応できた。	
グリーン購入の推進	① カタログでグリーン購入の表示がある物を注文する	① 良く対応できた。	①②の項目は次年度も 継続して実施する。
	② グリーン購入が安価でない場合、再検討して購入する	② 良く対応できた。	
全従業員の参加	① エコロジー情報や是正案の発表を月1回程度開催する	① 良く対応できた。 今後もこの水準を保って いきたい。	次年度も継続して実施 する。
業務品質の向上効率化	① 社内の整理整頓清掃を月1回実施する	① よく対応できたが、蓄積された資料の整理が課題。	①の項目は、不要な資料の 処分を定期的に行いたい。 ②の項目は次年度も継続 して実施する。
	② 月1回、社員による業務勉強会を開催する	② 予定通りではなかったが、 おおよそ実施できた。	
地域への環境配慮	① 工事現場での、近隣一斉清掃を開催する	① 対応できていない現場 があった。	①②の項目は次年度も 継続して実施する。
	② 事務所から出る古新聞は、地域のリサイクル業者へ提供する	② 良く対応できた。	
緊急事態への準備及び対応(対応策の策定・訓練の実施)		対応策・訓練共に良くできた	次年度も継続して実施。
内部・外部コミュニケーション(苦情・要望等)に対する取組み		内部コミュニケーションの記録が少なかった。	次年度は活発に実施できるように促す。
不適合(問題点等)に対する是正・予防処理への取組み		特筆すべき不適合事項なし。	次年度も不適合なしを 目標とする。

6. 環境目標の達成状況と分析

電力使用量

年間目標数値	5,120kw
年間実績	4,327kw
目標達成率	118%
判定	CLEAR !



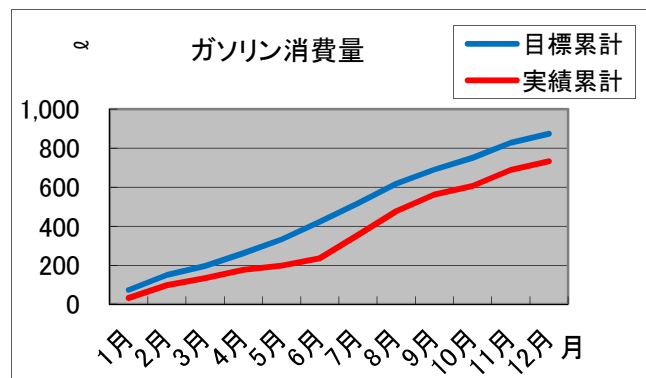
昨年度に比べ1月2月の数値が高めで、目標達成できていなかったがその他の月は全て目標達成する事が出来ました。毎日意識的に取り組み続ける事が目標達成に繋がったと考えます。この水準を2018年も保持し、さらなる節電への意識を社員の共通認識として努力します。



LED照明による使用電力の低減、二重サッシによる空調負荷の低減、これにより使用電力の水準は低いところで推移できています。

ガソリン消費量

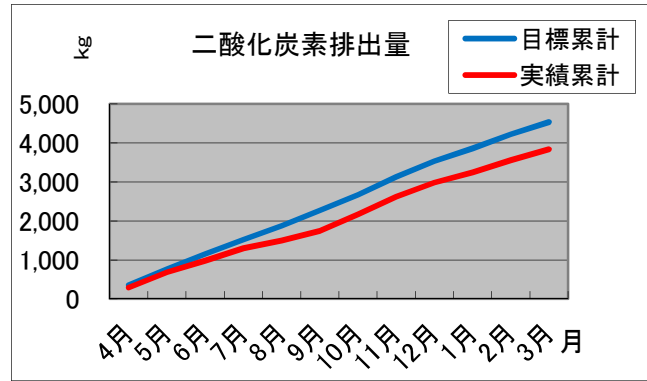
年間目標数値	874ℓ
年間実績	733ℓ
目標達成率	119%
判定	CLEAR !



現場の稼働状況により消費量に差は出て決めますが、平均的にガソリン消費量を抑えられています。本年度は車移動が必要な稼働現場が少なかったですが、現場が多くなった時にも目標を達成出来るよう、燃費の良い運転を心がけるよう社員への意識付けを継続して行っています。

二酸化炭素排出量

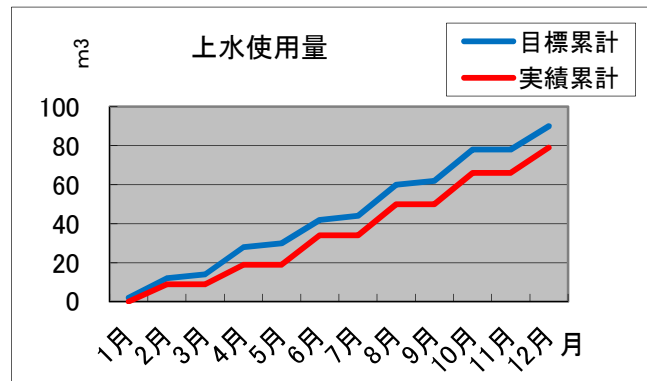
年間目標数値	4,533kg-Co2
年間実績	3,839kg-Co2
目標達成率	118%
判定	CLEAR !



昨年同様、二酸化炭素排出量の目標も達成できました。昨年度より電気・ガソリン使用量の目標達成率は高かったですが、2018年は目標値は引き上げないで現状のまま運営します。この結果は日頃より環境運営に気遣った社員の努力の成果と評価します。

上水使用量

年間目標数値	90m3
年間実績	79m3
目標達成率	114%
判定	CLEAR !



上水使用状況も、目標をクリアできました。年間実績は昨年より多少多いものの、目標達成率は昨年を大きく上回りました。社員全員が日ごろ節水を心がけている結果が現れたものだとして評価します。2018年も2017年の記録を上回れるよう、社員全員で節水に努めます。

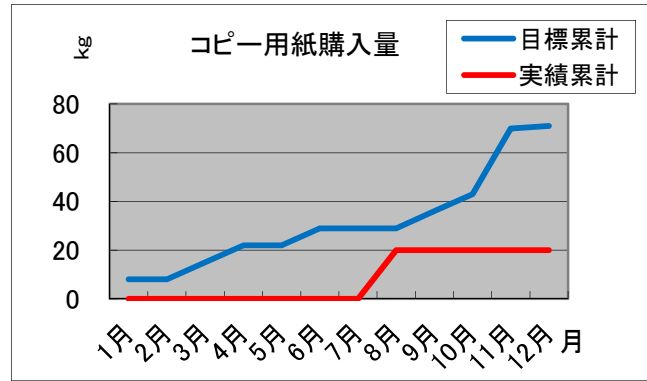


節水ポスター貼付け状況

飲用としての水使用よりも、洗いや洗濯に使用する水の量が大半を占めている。そのため、洗い場と洗濯場へポスターを貼って節水を呼び掛けています。

コピー用紙購入量

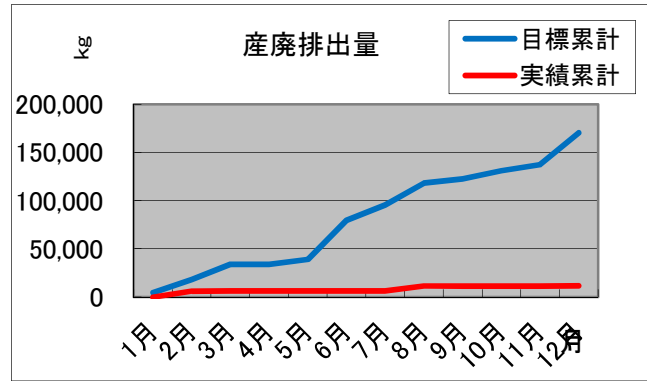
年間目標数値	71kg
年間実績	20kg
目標達成率	355%
判定	CLEAR !



今年度は元請現場が昨年に比べて少なく、事務所での紙使用頻度もそれに伴い減少し、購入量の大幅削減に繋がりました。現場が増えても目標達成するために、裏紙の使用を続けていくと共に、ミスプリントの削減にも心がけ慎重に印刷することで、更に良い結果に繋がると考えています。

産廃排出量

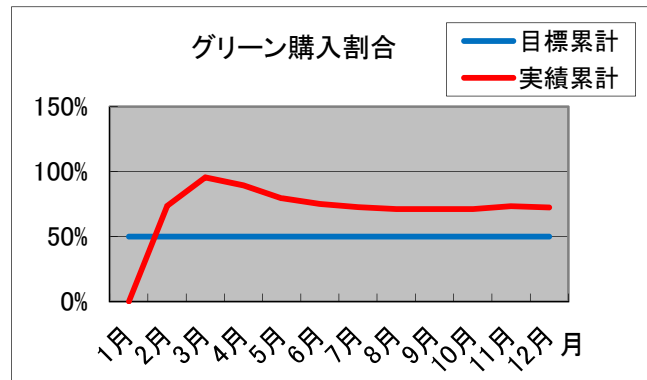
年間目標数値	170,432kg
年間実績	11,741kg
目標達成率	1452%
判定	CLEAR !



元請工事と下請工事とで産廃処理の受け持ちが変わり、それにより自社での処理量が変わります。昨年に比べ元請工事が少なく、排出量が大幅に減少したため達成率がぐんと上昇しました。2018年度元請工事が増加しても目標達成するよう、社員への指導は今後とも続けていきます。

グリーン購入割合

年間目標数値	50%
年間実績	72%
目標達成率	145%
判定	CLEAR !



事務所でインクや紙製品など、グリーン購入対象品を多く購入していたのが目標達成に繋がりました。紙製品はグリーン購入対象商品でも比較的安価なものも多く、迷わず購入することが出来ました。今後はどの商品が対象商品なのか勉強会などで社員全員で情報共有していこうと考えています。

7. 環境関連法規等の遵守評価記録

確認日：平成29年12月28日

作成日：平成30年1月4日

区分	法規制等名称	義務事項	遵守状況
廃棄物 発生材 リサイクル	廃棄処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・処理委託先の許可確認 ・委託契約の締結 ・契約書の5年間保管 ・マニフェストの交付 ・マニフェストの回収照合 ・未回収戻り票の報告 ・交付状況報告 ・処理困難通知の受理 ・野外焼却の禁止 ・雨風悪臭発生に対する養生 ・保管場所の掲示板設置 ・知事市長へ届出(特別管理産業廃棄物) 	適合
	建設廃棄物処理指針(平成22年度版)	<ul style="list-style-type: none"> ・マニフェストに基づく適正処理の実施 	適合
大気汚染	建築基準法	<ul style="list-style-type: none"> ・石綿含有建材の使用禁止 ・クロルピリホス添加建材の使用禁止 ・ホルムアルデヒドに関する規制 ①内装仕上げの規制 ②換気設備の義務付 ③天井裏等の制限 	適合
	自動車Nox・PM法	搬入車両が窒素酸化物の排出基準に適合していること	適合
	建設業に係る特定地域における自動車排出窒素酸化物の排出の抑制を図るための指針	排出ガス対策型であることの確認	適合

法規制等の一覧表を作成し、定期的に順守状況をチェックすることにより違反等の無い事を確認しました。尚、これらの法規制に対する関係当局からの違反の指摘及び関連する訴訟は過去3年間ありません。

■ 8. 代表者による見直し記録

総評

1.環境関連法規制等の遵守状況について

法令改正の情報なども勉強会により社員へ周知され、また関連法規の理解度も確実に上がっており、概ね遵守もされていた。

2.環境目標・環境活動計画の達成状況

昨年の基準値の見直しにより安定した目標達成率を維持できているが、ただ単に目標を緩めるのではなく、環境に適合した目標設定をしなければ、本来の環境活動の評価自体が揺らいでしまう。その点を今後の重点課題の1つとしていきたい。

3.問題点の是正処置・予防処置の結果

2017年としては特筆すべき問題点はないと判断する。2017年～2019年の目標から、その先の年の目標を設定する際は、もっと高い水準を目指せるよう、継続的な努力をしていきたい。

4.外部からの苦情・要望に対する結果

現場周囲の状況を理解しながら、苦情の出ない工夫をしているのが見受けられた。

5.環境経営システムの有効性及び妥当性

環境目標値達成のためには仕事上、生活上などあらゆる面での環境への配慮が求められる。そのためには社員全員が自主的かつ積極的に環境の事を考えての行動が必要。その一つ一つが組織的にも良い人材を育てていくと期待している。環境経営システムはその手法として、とても有効だと感じている。

改善のための提案

工事現場での安全管理は、どこに危険が潜んでいるのかを探すことから始まるように環境活動も、どこに無駄があり、どう改善できるのかを探すことから始めています。エコアクション21取得から6年経過し、もうやれることは無いのか、もっと効率のいい方法はないのか、そういう改善の視野を広げて活動を推進します。